

自分の学びを問い直せる生徒が育つ社会科学学習

ー「調べる」「考える」段階におけるピアフィードバックの活用を通してー

名古屋市立東港中学校教諭 飯 場 し お り

I 研究のねらい

貧困、差別、紛争、少子高齢化など、現代社会には様々な課題が山積している。さらに、これらの課題をめぐる情勢は日々変化を続けており、社会の変化に応じて柔軟に考えを練り直せる力は重要である。中学校社会科学学習指導要領は「公民としての資質・能力の基礎」を育成することを目標に掲げているが、これらの多くは一度習得すれば生涯使えるものではなく、社会の変化に応じて本当に適切かどうか、変化している部分はないか、一人一人が常に問い直していくべきものである。

早稲田大学教授の河村茂雄氏は、著書『ピアフィードバックのゼロ段階』(2025)において、「情報、知識、技術は(中略)どんどん更新され、現代人はその変化に対応しなければ社会から取り残されてしまいます」と述べており、「自ら学ぶ力」を備えた「自立した学習者」の育成が必要であると主張している。そして、「自ら学ぶ力」を、「自分に足りない面を自己判断して、必要な資質・能力を主体的に獲得しようとする力」と定義している。私は、「自分に足りない面を自己判断」するためには、自分の学びを絶対的なものとせず、問い直していくことが必要であると考えている。

しかし、自ら学ぶことは必ずしも、一人で学ぶことを意味するものではない。河村氏は同著で、自立した学習者を育成するためには他者と協働する必要がある、学習者同士の相互評価活動であるピアフィードバックが有効な手立てであることを述べている。実際に現代の社会は多様化が進んでおり、課題の解決には協働や共生が必要不可欠である。そうした現状を反映し、「ナゴヤ学びのコンパス」では「自由な市民として互いを認め合い、共に社会を創造する」市民を育てることを目標として掲げている。

私がこれまで行ってきた実践における、学びの問い直しがなされていない例として、複数の視点を踏まえて解決策を考えるべき課題について、単一の視点から調べたり考えたりするだけの生徒が見られた。そうした生徒は、自分一人では視点の偏りや不足に気付くことができず、「難しくてよく分からない」や「もう自分の考えはまとまっている」と感じ、考えることを止めてしまう様子が見られた。

これらのことから私は、「自分の学びを問い直せる生徒」を育成したいと考えた。本研究における「学びを問い直す」とは、「他者の視点や考えを取り入れながら、自分の学びを見直し、考えを練り直していくこと」と定義する。考えを練り直すことには、考えそのものの変更だけではなく、様々な視点や条件を踏まえられるようになったことも含まれる。また、他者の視点を取り入れることは、自分とは異なる視点を獲得することであり、社会科学学習指導要領に定められた多面的・多角的な考察にもつながると考える。本研究では、河村氏が提唱するピアフィードバックの手法を取り入れ、他者と協働する活動を通じて、他者の視点や考えを取り入れながら自分の学びを問い直せる生徒の育成を目指す。

II 研究の方法

1 研究の対象 名古屋市立東港中学校 第3学年 39人

2 基本的な考え

ピアフィードバックとは「対等な者同士が互いにフィードバックし合うこと」であり(河村, 2025)、相互評価的な活動を広く指す言葉である。そのため、目的や評価対象を限定せずに使うことのできるよ

さがある。そこで、本研究では「つかむ」「調べる」「考える」「振り返る」の学習段階を設定し、「調べる」段階における学習のプロセスに対するピアフィードバックと、「考える」段階における生徒の考えに対するピアフィードバックを実施することで、自分の学びを問い直せる生徒の育成を目指す【資料1】。

(1) プロセスに対するピアフィードバック

「調べる」段階において、生徒は調べた内容と現時点での自分の考えを、「自分で見直しシート」【資料2】に記録していく。そして、「調べる」段階の途中で、「自分で見直しシート」を基に、「調べる」視点が偏っていないか」「調べた内容を基に考えているか」などの観点から、グループになってピアフィードバックを行う。これにより、生徒は他者の視点を踏まえて自分の調べた内容、調べる視点、今後の計画などを見直し、修正する。ピアフィードバックを通して、生徒は自分の視点の不足や偏りに気づき、様々な視点を踏まえた見方ができるようになると考える。

(2) 考えに対するピアフィードバック

「考える」段階において、「みんなで評価シート」【資料3】を活用したピアフィードバックを行う。生徒は学習問題に対する自分の考えを記述した後、グループになって考えを伝え合い、互いの考えについて評価とフィードバックを行う。その際、社会的な見方・考え方に基づいた評価とフィードバックができるように、評価基準を全体で確認し、参照させる。評価とフィードバックをシートに残せるようにすることで、生徒はいつでもそれを読み返すことができる。その後、生徒は自分の考えを練り直し、再度記述する。ピアフィードバックを通して、生徒は自分の考えの不足や偏りに気づき、考えを練り直せるようになると考える。

3 6月実践「現代の民主政治と社会」と

10月実践「個人の尊重と日本国憲法」における学習展開

	手立て(1)	手立て(2)
実施する学習段階	「調べる」段階	「考える」段階
ピアフィードバックの対象	プロセス	考え
目的	異なる視点を獲得する	自分の考えを練り直す
方法	「自分で見直しシート」の視点を参照しながら、フィードバックを行う	「みんなで評価シート」の評価基準を参照しながら、評価とフィードバックを行う
期待される効果	視点の不足や偏りに気付く	考えの不足や偏りに気付く

【資料1】2回のピアフィードバックの比較

現代社会と私たち・自分で見直しシート		組 名前 ☆ ☆ ☆ ☆
<学習記録>		
調べた内容	日本には女性差別、人権差別、障がい者差別などの差別がある。どの差別も人権（平等権や自由権）を侵害している。	
今の段階での考え	差別は性別や人種などの特徴で、平等や不利益を与えるという課題。人権を侵害して、された人がつらい気持ちになるので重要な課題だと思う。	
次回調べたいこと	歴史の授業でアイヌ民族への差別も習ったので、それも調べたい。海外にも差別問題があるのかどうかにも気になる。	
<中間フィードバック>		
評価者	調べた内容と考えがつながっているか	もっと調べるとよいことはあるか
〇〇 さん	いろいろな差別について調べていて、どれも差別をされた人がつらい気持ちになるもので、つながっていると思います。	どんな課題なのかを詳しく説明してほしいです。あと、人権を侵害しているというのがどういふことか、あまり分かりませんでした。
□□ さん	人権を侵害とか、つらい気持ちになるとかが、あいまいで分かりにくい。具体的にどういふ不利益があるのか気になった。	自分は労働問題について調べているけど、女性が出世できないみたいな話が出てきたので、調べたら関係あるかもしれない。
フィードバックを聞いて修正したいこと、もっと調べたいこと		
他の課題について調べられていなかった。女性差別を調べていた時に、女性の方が給料が低いうことが出てきたので、そこをもう少し調べて、たとえばこういう不利益がありまうってちゃんと説明できるようにしたい。時間があつたら他の差別のことや、人権についても調べたい。		

【資料2】「自分で見直しシート」の例

現代社会と私たち・みんなで評価シート		組 名前 ☆ ☆ ☆ ☆
<評価基準>		
評価	思考・判断・表現	
A	B評価の内容に加え、他の課題とも関わらせながら記述することができている。	
B	現代社会の課題について調べ、それがどんな課題なのか、重要な課題であると考え理由を説明できている。	
C	現代社会の課題について調べ、それがどんな課題なのかを説明できている。	
<みんなで評価>		
評価者： 〇〇	評価： B	
どんな課題なのか	色々な差別について説明されていて、どんな課題なのかよく分かりました。	
重要と考える理由	差別はされた人がとてもつらい気持ちになることが分かりました。	
他の課題との関わり	ここが書けていないのでB評価です。いじめにつながりそうだと思いました。	
評価者： □□	評価： B	
どんな課題なのか	人種、障がい者、女性、アイヌ民族など、いろいろな差別がある。	
重要と考える理由	いやな思いをする人がいる。ずっとなくならない。人権侵害。	
他の課題との関わり	女性差別で「出世できない」って書いたら、格差問題も関係あるかも。	

【資料3】「みんなで評価シート」の例

単元と目標	「現代の民主政治と社会」（11 時間完了）	「個人の尊重と日本国憲法」（11 時間完了）
	【実践のねらい】 第二次世界大戦後に制定された日本国憲法に、どのような思いや願いが込められているかを理解する。それを踏まえて、現代日本の投票率が低いという現状を捉え、国民主権が十分に行使されていないという課題に気づき、その解決策を様々な立場や視点を踏まえて考えることができるようにする。	【実践のねらい】 基本的な人権の尊重について学習し、守られるべき権利の存在と、その重要性について理解する。それを踏まえて、現代社会では SNS による誹謗中傷が絶えないという現状を捉え、人権が侵害されているという課題に気づき、その解決策を様々な立場や視点を踏まえて考えることができるようにする。

段階	主な学習活動（丸数字は時間）	
つかむ	① 第二次世界大戦後、日本国憲法が制定されたことと、三原則の内容を理解する。戦後初の選挙や国会の様子を知った後、近年の日本の投票率が低いことを資料から読み取り、学習問題を設定する。 【学習問題】 現代の日本において、国民主権が十分に行使されるためにはどうすればよいだろうか。 ②～④ 日本の選挙制度について学習し、国民主権や民主主義の意義を確認する。 ⑤ なぜ投票率が低いのかを考え、調べ学習の計画を立てる。 ＜調べ学習のヒント＞ ・ 国内ではどんな対策がされているのか ・ 海外ではどんな制度があるのか ・ 選挙以外の政治参加は可能なのか ・ 実際に投票しない人はどんな考えなのか	① SNS による誹謗中傷が現代社会の課題となっていることを資料から読み取り、学習問題を設定する。 【学習問題】 現代の日本において、SNS による誹謗中傷をなくすためにはどうすればよいだろうか。 ②～④ 基本的人権について学習し、憲法と人権の観点から見て、誹謗中傷が許されない行為であることを確認する。 ⑤ なぜ誹謗中傷がなくなるのかを考え、調べ学習の計画を立てる。 ＜調べ学習のヒント＞ ・ 日本の法律では禁止されているのか ・ 海外にどんな制度や法律があるのか ・ SNS の利用規約で禁止されているのか ・ 誹謗中傷をする人はどんな考えなのか
調べる	⑥・⑦ 学習計画に沿って調べ学習を行い、「自分で見直しシート」に記録する。 ⑧ 「自分で見直しシート」を基にピアフィードバックを行い、もらったフィードバックを基に、学習計画を修正する。【検証場面①】 ＜修正の例＞ 国内で行われている対策についてばかり調べていたけど、「海外の制度について調べるのはどうか」という意見をもらったので、次回はそれを調べてみたい。 ⑨ 新たな学習計画に沿って調べ学習を行い、自分の考えをまとめる。 ＜記述の例＞ 海外では投票を義務にしている国もある。投票に行かない理由として「めんどくさい」というものがあつたので、義務化して罰則をつければそんなこと言わなくなると思う。	⑥・⑦ 学習計画に沿って調べ学習を行い、「自分で見直しシート」に記録する。 ⑧ 「自分で見直しシート」を基にピアフィードバックを行い、もらったフィードバックを基に、学習計画を修正する。【検証場面①】 ＜修正の例＞ どんな実例があるのか、これまではニュースを調べていたけれど、色々な例をまとめてあるインターネットのデータベースを教えてもらったので、活用していきたい。 ⑨ 新たな学習計画に沿って調べ学習を行い、自分の考えをまとめる。 ＜記述の例＞ 相手が悪いことをしていれば叩いてもいいという風潮があるのがよくないと思った。それもいけないということを学校で教える必要があると思う。
考える	⑩ 「みんなで評価シート」を使って、ピアフィードバックを行い、もらったフィードバックを基に、自分の考えを練り直す。【検証場面②】 ＜変容の例＞ 仕事などの都合がつかなくて選挙に行けない人がかわいそうだという意見があつた。義務化するべきという意見は変わらないけど、その前に期日前投票やインターネット投票の制度をもっと整備するべきだと思った。	⑩ 「みんなで評価シート」を使って、ピアフィードバックを行い、もらったフィードバックを基に、自分の考えを練り直す。【検証場面②】 ＜変容の例＞ 学校で教えてもどうせ忘れてしまうという意見があつた。そうは思わないけど、SNS の問題だから SNS で発信するといい、という考えの人がいて、納得したので、自分も付け足そうと思った。

振り返る	⑪ 単元の学習を振り返り、他者の視点や考えをどのように生かしたかを認識すると共に、今後の学習についての見通しをもつ。	⑫ 単元の学習を振り返り、他者の視点や考えをどのように生かしたかを認識すると共に、今後の学習についての見通しをもつ。
------	--	--

4 生徒の実態調査

単元「二度の世界大戦と日本」の「調べる」段階において、「日本が太平洋戦争を回避するためにはどうすればよかったか」という学習問題に対して、様々な視点から調べることができるかを、調べ学習の内容から調査する。また、「考える」段階において、様々な立場や視点を踏まえて考えることができるかを、ワークシートの記述内容から調査する。

5 授業研究を通して明らかにしたいこと

- (1) 「調べる」段階において、「自分で見直しシート」を活用してピアフィードバックを行うことは、他者の視点を取り入れ、様々な視点を踏まえた見方をする上で有効か、ピアフィードバック前後における調べ学習の視点や計画の変容からつかむ。
- (2) 「考える」段階において、「みんなで評価シート」を活用してピアフィードバックを行うことは、様々な視点を踏まえて考えを練り直せるようになる上で有効か、ピアフィードバックの前後における考えの記述の変容からつかむ。

Ⅲ 年間の研究計画

月	研究・調査・授業研究等
4	○ 実態調査を行う。
5	○ 研究主題の基本的な考え方を基に研究の方向性を定め、研究計画書を作成する。 ○ 第1次授業研究の授業研究計画書を作成し、検討する。 ○ 長期研修の日程を作成する。
6	○ 第1次授業研究実践単元「現代の民主政治と社会」 【検証点1】 「調べる」段階において、「自分で見直しシート」を活用してピアフィードバックを行うことは、他者の視点を取り入れ、様々な視点を踏まえた見方をする上で有効か、ピアフィードバック前後における調べ学習の視点や計画の変容からつかむ。 【検証点2】 「考える」段階において、「みんなで評価シート」を活用してピアフィードバックを行うことは、様々な視点を踏まえて考えを練り直せるようになる上で有効か、ピアフィードバックの前後における考えの記述の変容からつかむ。
7	○ 第1次授業研究を分析し、基本的な考えを修正する。 ○ 中間のまとめを作成し、今後の研究の方向性を明らかにする。
8	○ 長期研修（A日程）先進研究者を訪問し、研究を深める。 ・ 早稲田大学教授 河村茂雄氏 ・ かねつ有明中・高等学校教諭 田中理紗氏 ・ 育英大学教授 山本佐江氏 ・ 広島大学准教授 南浦涼介氏 ・ 学習院大学教授 篠ヶ谷圭太氏 ・ 鳴門教育大学教授 梅津正美氏 ○ 第2次授業研究の授業研究計画書を作成し、検討する。
9	○ 第2次授業研究実践単元「個人の尊重と日本国憲法」
10	長期研修で学んだことを基に授業改善し、【検証点1】【検証点2】を検証する。
11	○ 第1・2次授業研究の成果や課題、長期研修の成果や今後の研究の課題などを明らかにし、最終
12	報告書を作成する。
1	○ 「自分の学びを問い直せる生徒が育つ社会科学習」について、1年間の成果や課題をまとめ、発
2	表する。
3	○ 1年間の研究を反省し、今後の研究の方向付けをする。

参考・引用文献 河村茂雄『ピアフィードバックのゼロ段階』 図書文化社(2025)